

そんし けいへん
孫子「計篇」

1 孫子曰わく、兵とは国の大事なり、死生の地、存亡の道、察せざるべからざるなり。

故にこれを経るに五事を以てし、これを校ぶるに計を以てして、其の情を索む。一に曰わく道、二に曰わく天、三に曰わく地、四に曰わく将、五に曰わく法なり。道とは、民をして上と意を同うし、これと死すべくこれと生くべくして、危わざらしむるなり。天とは、陰陽・寒暑・時制なり。地とは遠近・險易・広狭・死生なり。将とは、智・信・仁・勇・嚴なり。法とは、曲制・官道・主用なり。凡そ此の五者は、将は聞かざること莫きも、これを知る者は勝ち、知らざる者は勝たず。故にこれを校ぶるに計を以てして、其の情を索む。曰わく、主 孰れか有道なる、将 孰れか有能なる、天地 孰れか得たる、法令 孰れか行なわる、兵衆 孰れか強き、士卒 孰れか練いたる、賞罰 孰れか明らかると。吾れ此れを以て勝負を知る。

2 将 吾が計を聴くときは、これを用うれば必ず勝つ、これを留めん。

将 わが計を聴かざるときは、これを用うれば必ず敗る、これを去らん。計、利として以て聴かるれば、乃わちこれ

が勢を為して、以て其の外を佐く。勢とは利に因りて権を制するなり。

3 兵とは詭道なり。

故に、能なるもこれに不能を示し、用なるもこれに不用を示し、近くともこれに遠きを示し、遠くとも此れに近きを示し、利にしてこれを誘い、乱にしてこれを取り、實にしてこれに備え、強にしてこれを避け、怒にしてこれを撓し、卑にしてこれを驕らせ、佚にしてこれを勞し、親にしてこれを離す。其の無備を攻め、其の不意に出ず。此れ兵家の勢、先きは伝うべからざるなり。

4 夫れ未だ戦わずして廟算して勝つ者は、算を得ること多ければなり。

未だ戦わずして廟算して勝たざる者は、算を得ること少なければなり。算多きは勝ち、算少なきは勝たず。而るを況んや算なきに於いてをや。吾れ此れを以てこれを觀るに、勝負見わる。